

自民党・西田昌司議員の歴史歪曲と沖縄県民への侮辱に抗議する(談話)

2025年5月8日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

自民党の西田昌司参議院議員が5月3日に沖縄県那覇市でのシンポジウムで沖縄戦について発言した内容が重大問題となっています。

西田氏はシンポジウムで、糸満市のひめゆりの塔周辺にある表示や沖縄の教育について「歴史の書き換え」などと断じました。

私たちは、存在しない「表示」などについての妄言により沖縄県民の苦難の歴史を侮辱し、沖縄戦における日本軍による住民への犠牲をなかつたことにしようとする西田氏の発言に強く抗議し、撤回と謝罪を求めます。

日本帝国主義が進めた無謀なアジア太平洋戦争末期の1945年、日本軍は「本土防衛」の時間稼ぎに米軍との「持久戦」を続け、沖縄本島南部に移動する際、住民や動員された生徒たちも道連れにし、県民の4人1人といわれる多くの犠牲者を出しました。

この動かしようのない歴史的事実を歪曲することは犠牲者を冒瀆するものであり、「住民を守らなかった」旧日本軍を美化しようとするものにほかなりません。そのことは、辺野古新基地建設反対をはじめ、戦争への道に反対する今日の沖縄の民意に対する挑戦といわなければなりません。

西田氏は、自分の発言の誤りの指摘に対して撤回を拒否しており、沖縄県議会での抗議決議も検討されています。

今回の事態は、自公政権がいま進めている「戦争国家づくり」の動きと無関係ではありません。沖縄では、沖縄戦を指揮した日本軍第32軍の牛島満司令官が、軍国主義国家日本を美化した「辞世の句」が自衛隊第15旅団のホームページに再掲載されたことが大きな問題になっています。

私たちは、このような一連の動きの中での今回の西田議員の発言を重視し、歴史の歪曲と「戦争国家づくり」を許さないため、西田発言の撤回を求める取り組みの強化を訴えます。

以上